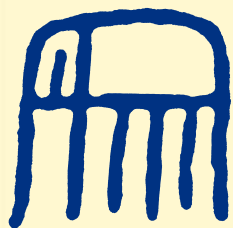
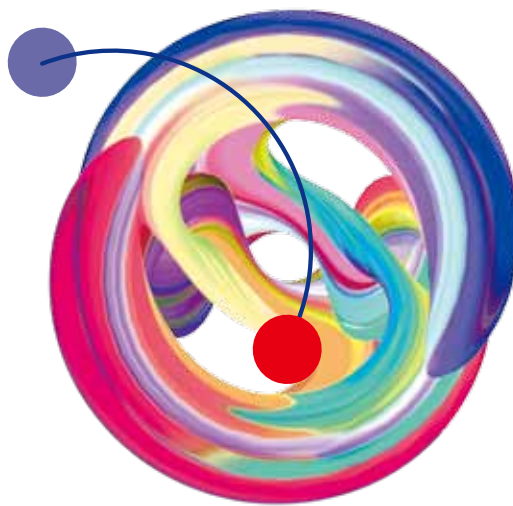


2016.2 NO.62

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



「京都芸大同窓会アートフェア 2016」開催間近

京都市立芸術大学移転支援事業（同窓生作品オークション）

京都芸大同窓会アートフェア 2016

あの作家の あのアートを あなたのものに！

期 間：2016年 3月 26日(土)～ 4月 3日(日)

11:00～19:00
(最終入場 18:30 まで)
<月曜日(28日)休館>

会 場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA (アクア)

<京都市中京区堀川通御池東北角> ☎075-253-1509

オープニングレセプション 3月26日(土) 16:00～

昨年の総会において決まりました、大学移転支援を目的としたオークション、京都芸大同窓会アートフェア2016は、同窓会からの出展呼びかけに246人の方から申し込みをいただきました。現在、実行委員会役員を中心に準備作業が進んでおり、出品点数は300点に届くものと予想しています。

また、アートフェア2016の会期中、会場では音楽学部同窓会真声会の会員によるリレーコンサートも行われ、オール芸大同窓会による画期的な取り組みとなります。

アートフェア2016の内容、エントリーいただいた方々の名前は、同封のフライヤー（チラシ）に掲載していますので併せてご覧ください。

●入札方法 入札最低価格：1万円～

1 会場で入札



展示会場にて専用入札用紙に記入の上、提出する。

2 WEBで入札



<http://www.kcua.ac.jp/artfair>
にアクセスし、専用ページからWEB入札する。
WEB入札開始 3月26日(土) 13:00～

3 FAXで入札



専用入札用紙に記入の上、
下記へFAXする。
075-253-1510 (FAX専用)

Head line

「京都芸大同窓会アートフェア 2016」開催間近	1	新任のあいさつ	9
芸大移転の動向	2	芸祭「象の店」報告	9
同窓生だより 「象展」第30回を迎えて	3	会員展覧会	10
はにわ企画〈寄稿〉	4	学内消息（資料）	11
研究室だより 版画専攻	6	芸大「作品展」の案内	12
彫刻専攻	7	事務局だより	12
Relay Talk 「象の会・いろいろあわせ」	8	編集後記	12
退任にあたって	8		

移転整備に関する検討と移転基本コンセプト“テラス(terrace)”

この「移転基本コンセプト」では、“テラス（terrace）”を移転の象徴的なキーワードとしており、京都芸大の新キャンパスを「京都の市民文化の新たな火床」（床＝テラス）として位置付け、移転を機に、これまで世界的にも高く評価されるアーティスト達を数多く世に送り出すという形で担ってきた日本の芸術文化の火床の一つ、世界への発信拠点の一つとしての本学の機能をさらに大きく飛躍させようとするものです。

(大学 総務広報課)



移転整備に関する学内での検討の様子

⑥ 下京いきいき市民活動センター第二高齢者ふれあいサロン

⑦ 崇仁第三浴場

② 下京地域体育館及び崇仁児童館等

④ 柳原銀行記念資料館

⑥ 崇仁公園

⑤ 市営住宅

③ 崇仁保育所

① 元崇仁小学校

G 地区

B 地区

A 地区

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度 (2020年)	33年度	34年度	35年度
先行施設 (A地区)	基本計画の策定 環境アセスの実施	基本設計	実施設計	工事		○供用開始			
その他 (先行施設以外の A地区、B地区、C 地区)			元崇仁小学校解体		基本設計の 再点検	実施設計	工事	○供用開始	

「象展」第30回を迎えて

象展 代表 二階堂 忠
西洋画科 (1962年卒)

東京では毎年春桜の季節に、同窓会展「象展」を開催してきましたが、今年で第30回を迎えます。

第1回展は、「京美の会」(日本画)として昭和62年1月19日～31日、石田勇さん(22年日本画卒)の呼びかけで発足、銀座雅画廊にて開催されました。第3回展からは、会の名称を同窓会誌の「象」から「象展」と改名、洋画や日本画など新しい参加者も増えるにつれ会場を銀座から数寄屋橋、京橋へと移転、その後ギャラリーくぼたを会場に毎年開催し続けてきました。

私が初めて「象展」に参加したのは2001年第15回記念展からでした。

第15回展記念展には21名が出品、日本画や油絵、水彩、版画、タペストリーなど約40点展示されました。

第20回展からは会場を2フロアーに拡げ、展示スペース2.5m以内で3点を基準に60～70点前後の作品を展示、油絵や日本画、版画、リトグラフ等、出品作品も大きくなるに加え、デザイン・工芸部門からの出品が増え、陶芸やガラスエッセ、コンピューターグラフィックス、造形作品などジャンルも幅広く、バラエティーに富んだ内容で同窓会展にふさわしく見応えのある素晴らしい作品展になってきたと思います。

現在会員数は37名

地域別では、首都圏33名、名古屋2名、大垣1名、神戸1名
学科別では、日本画12名、西洋画16名、デザイン・工芸9名
卒年別では、美専4名、美大27名、芸大6名

象展の魅力は世代やジャンル、作風は異なるけれど同じ学窓で学んだ仲間がそれぞれの作品を携えて一堂に集う喜びとでも言えましょう。

一方この会も発足して30年、会員の高齢化が進み亡くなる方や退会される方もあり、世代交代の時期に差し掛かっておりま

すが、これからの会の充実と発展に向けて新しい方々の参加が不可欠です。

特に若い世代の方々の入会を期待しています。

「象展」は会員相互の親睦を図り自由と創造の精神を踏まえ広い世代の仲間達が集い自由で個性豊かな作品を発表する場です。運営に当たっては融和を心がけ、みんなで協力し合うことが大切です。

作品の展示、飾り付け、会場当番などは公平にみんなで分担します。お互いの協力で無事展示が終了した後の懇親会の宴席もまた格別に楽しいひと時となっています。

「象展」は、芸大の卒業生であればどなたでも参加できるオープンな作品展です。

近く第30回「象展」を下記要領にて開催致します。この場を借りてご案内させていただきます。

皆様のご来場をお待ちしております。

第30回「象展」

会期：2016年3月28日(月)～4月3日(日)

AM11:00～PM6:00

(終日は4時まで)

会場：東京・京橋 ギャラリーくぼた 3F4F

<問い合わせ先>

〒274-0064

船橋市松が丘4-47-15

代表／二階堂 忠

電話／FAX 047-466-0844



第29回象展 (2015年3月)

はにわ企画一同（岡田夏美 / 笠松祥平 / 河原雪花 / 川畑友嘉里 / 上西樹 / 鈴木真衣子 / 發知明日香 / 森沢拓郎 / 宇野湧 / 河野沙也子）



卒業生の皆様、はじめまして。私達は京芸の一回生です。皆様は京芸のハニワを覚えておいででしょうか。多くの方が、ハニワが池の中で立っている様子を在学中に見かけたかと思います。しかし私達の入学時には池の中でなく、小さな丸池の隣に静かにひっそり立っていました。そのハニワと、学長先生のツーショット写真が2015年朝日新聞に掲載された所から、事は始まります。総合基礎実技第四課題《企画プロデュース》にて、ある人が「特に目立っている訳でもないハニワが、まるで京芸のシンボルのように朝日新聞に写っている」ことに違和感を感じ「ハニワを京芸のシンボルにしよう」という企画を思いつきます。それは「はにわ企画」と称され、結果この企画は大成功し、また大変面白い事が次々と明らかになりました。これらを自分達だけが知っているのはとてももったいないことのように思え、この場をお借りして調査報告をさせていただきます。

私達はまず、ハニワをシンボルにするに当たり、「どうすればハニワに注目が行くだろうか」と考えました。話し合いと並行して、ハニワが描かれた紙やミニハニワをたくさん作り学内の様々な場所に設置します。しかし話し合いは難航しました。ミニハニワや紙だけではとてもシンボル化など無理ですし、ハニワ本体へのアプローチが不可欠だったのですが、良い案が中々出ないのです。そんな中、「壊したらええやん。」メンバーの一人が言いました。「いやいや、それはないやろ（笑）」みんな笑っていましたが、その人は本気でした。煮詰まっていた私達も少し本気で考えます。「確かに壊れたら注目行くよね。」「失われたからこそ、大切さに気づくかも…。」「その破片を展示したら…。」一時は本当に破壊する方向でした。その頃私達は、京芸のハニワは何年も前に生徒が総基礎で作った物だと思っていたのです。（ある先生がそうおっしゃっていました。）しかし実際に壊すと考えると皆が躊躇しました。なぜ、意味もなくそこにいるだけで、なんの役にも立っていない物体を壊すことに躊躇が生まれるのか、疑問が残りました。

た。その答えはおそらく、ハニワに長い年月が積み重なり、その間京芸と人々を見守り、見守られ続けていたからなのでしょう。そこで私達は、ハニワの歴史について調べてみることにしました。

すぐに発覚したのは、このハニワが総基礎で作られたものではなく30年前の1984年、当時染織院生だった藤浩志さんという方の卒業制作として作られた物だったことです。「それを壊すのはさすがにマズイ!」ということで急遽代案「ハニワのフェイクを作ってそれを壊したらええんちゃう!？」この方向で考えることになりました。かなり無理がありますが、時間も迫るばかり、私達はセメントでハニワを作り始めました。そして以前、ハニワが丸池の横でなく池の中に居たことを知ります。「それなら引き上げた人がいるはず!」私達はその引き上げた張本人、上坂さんを突き止めました。上坂さんはまだ非常勤として大学内におられ、インタビューに快く応じて下さいました。

《池浄化プロジェクト》を遂行していた、当時三回生の上坂さんは池の水を抜き、下のヘドロを掃除、その過程においてハニワを引き上げたそうです。ハニワは大変重く、目の空洞にロープをかけて6人で引っ張ったとか。それから小さな丸池の横に設置したそうです。また、その頃ハニワは京芸のシンボリック的存在だったと聞き、そのことは私達を大変驚かせました。

それから当時藤さんと友達だった、小山田徹先生にも話を伺うことができました。先生や藤さんが学生だった80年代初頭は現代美術の概念があまねく出てきた頃であり皆が美術のあり方に悩んでいたそうです。そして美術業界や美術そのものがなにか空虚なもののように思われ、それは藤さんにとって中が空洞のハニワのイメージへと繋がります。藤さんはハニワを制作し、美術や、芸大へのアンチテーゼとして発表、そして卒業式の日に疑問をそのまま、芸大の真ん中にある池に沈めたそうです。

そして、このハニワを作った本人、藤浩志さんとともに連絡がきます。私達は、藤さんから当時の様子を伺うことができました。藤さんによると、もともとは《ゴジラとハニワの結婚離婚問題》という修士研究のツールだったそうです。相方のゴジラには藤さんが入り赤坂を散歩したり、マクドナルドに突撃したりしたそうです。（以下藤さん）

『大学院修了の審査会を公開にしてゴジラとハニワの結婚式を行いました。司会進行役が若かりし藤浩志。公開ということだったので、学生がたくさん来てくれました。教授に対して「美術という立派なハニワさんと結婚できておめでとう!」のような祝辞をお願いしていたのですが、いつもは温厚な教授たちが怒り出したり泣き出したり。申し訳ないことをしました。で、卒業式に、池の横でラブソングを歌いながらハニワ・・・当時美子（よしこ）さんと呼んでいました・・・とお別れし、池にハニワを沈める儀式を行いました。』藤さんはその時ハニワ

のマンガを配布したそうです。権威としての美術というハニワに注意しろとの警告を後輩たちに伝えています。(ページ最後に漫画の写真があります。藤さんの後輩、ちゅんさん作)

ハニワ、美子さんはかなり重量がありますが、実は水中で軽々と立てたり沈めたりすることができます。その秘密も、藤さんは教えて下さいました。

『問題はこのハニワの制作工程にありました。僕は沈めて、見えない状態にしたのですが、次の春、新入生が池に落とされ、(昔はなぜだか新入生歓迎で池に落としていました。)ハニワを探せと言われ、探し出して立ててしまったのです。軽々と倒したり起こせたりする原因は制作プロセスにありました。中心に僕が入れるぐらいの発泡スチロールの塊を芯としてその周りにコンクリートを積み上げて制作しています。僕は当時染織専攻で学部時代に臍癰染をやっていた関係で大量のシンナーを持っていたので、最終的にそのシンナーで発砲スチロールの芯を溶かそうと思っていました。コンクリートがかたまり、目とか口とかからシンナーを流し込んだ瞬間、ものすごいいかにも毒性のたかそうな煙がもくもくと出て、僕は倒れてしまいました。ということで、完全に発砲スチロールを除去できない状態で、まあ、いいっか。ということで完成させたのです。ですから予想外に池の中で簡単に起こしたり沈めたりできる浮力がついたのです。当時は頻繁に池に放り込まれる新入生がいたので、ハニワがいないと探して立てる。そして次に落とされた人はまた沈める・・・ということがお決まりになってしまいました。ですから、いままで池に何もいなかったのに、突然ハニワが現れたり、とつぜんいなくなったり・・・当時の学生はハニワを見て「ああ、昨日だれか池に落とされたな～」と。』

今回調べたことで、ハニワに対する3つの世代の認識が明らかになりました。ひとつは藤さん、上坂さん世代《空虚な現代美術自体を体現している物体》という認識。それから上坂さん世代《シンボルとしてのハニワ》。そして私達の世代は《なんとなく立っているもの》と認識していました。ここまで事実が発覚し、私達はハニワをシンボルにするにはどうすればよいか、再度考えました。答えはすぐに出ました。「もう一度、池に設置するしかない!」作っていたフェイクハニワは美子さんの夫として、結婚式を開こう、そして一緒に池に設置しよう。そうすれば歴史の繰返しではなく、新しいページをめくることができるのではないか。夫ハニワには「攻(おさむ)」という名前を付けました。(名前は企画グループのリーダーから頂きました。)来たる結婚式、多くの人が集まって下さり美子さんと攻くんは華やかに結婚式を挙げます。池に佇むはにわ達の姿はSNSなどで広まり学内だけでなく学外からも反響を呼びました。二回生や三回生からは「どうして池に?」「かわいそうじゃないか!」など批判的な声も聞きました。一方先生方や京芸の卒業生の方からは「池に戻って嬉しい!」「懐かしい。」など喜ばれているとお聞きし、やはりここでも世代によってのハニワへの認識の違いを感じました。



今、ハニワ達を池で見ることはできません。2015年芸祭最終日の夜、池に飛び込んだ学生により、2体揃って池の中に沈められました。今後、京芸のハニワがまた起されるのか、もしかするとこのまま忘れ去られるのか…。まだ、ハニワの歴史は続いていきます。

今回の企画にあたり、多くの方にご協力頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



版画専攻研究室

出原 司
版画専攻 教授

ご存知のとおり少人数のスタッフで運営している研究室なので、退任教員の交代前後で随分と教室の見てくれは変わります。木村秀樹先生の退任以来、版画研究室もここ数年ですっかり様変わりしました。とは言っても研究室開放や、全学年ひと括りの教室など変わらない点もたくさんあります。なにより版画専攻にとっての技法はその習熟が目的ではなく表現する為の手段にすぎないので、順を追って作業を進める取説のような授業はしない。前段階のひとつひとつが次のステップに必須というわけではないと考えている所、などは教室設置当時からずっと続いている事ではないでしょうか。(大事な部分を抜き出して制作をしようと言うことなので、らくちんに作業すべしというわけではありませんから、当然退屈でハードな修練が必要な局面もあります)



シルクスクリーン制作風景



銅版画制作プロセス

私が版画専攻に入った当時の地位闘争(版画も芸術だよ~などという)のようなものはどこかよそでは続いているかも知れませんが、この学校に限って言えばかつての偏見はなくなり、各実技専攻間は単に知識や経験の差に縮まっているように思います。突き放した言いかたをすると、よそ様の事はよく知らないだけかもです。どの専攻も教義のようなものが一掃され、おもしろいことがその専攻を代表するような状況も柔軟に受け入れられるようになってきているように思います。

1970年当時この教室を卒業した、あるいは修了した皆さんのご記憶にある教室は全学生数10から15名だったと思います。(私の学年だけは例外的に1学年で10名以上いましたが) そのころは専攻に席を置く前に基礎を学ぶ為の授業で且つ全学に開放されていた版画基礎という授業があり一年を通じてえらいにぎわいでした(といっても年3~4回それぞれ1ヶ月集中で16名限定でしたから全学年は基礎を入れても30名を超える事はめったになかったように思います)。専門的に版画だけを履修できたのは、ほとんどの学生は3年生後期以降のみだったのです。

今現在は1年生17名、2年生10名、3年生8名、4年生6名、修士1回6名、修士2回3名、研究留学生2名、博士後期課程1名、の53名が所属して制作しています。美術科の全学生数は変わっていないのに、です。これが多いのか少ないのかはあえて申しませんが、色々工夫して運営しております。それがゆえ、でもないので、もともと技法やアイデアの新規開拓に熱心だった専攻に、ますます多様な取り組みが増え

ました。従来の写真、デジタルプリント、特殊なインクを使った押しだし成形のような版画、版に詰められたインクが石膏層のエッジに毛細管原理によって抽出され浮き出てくる作品といったユニークなものが次々に産み出されています。これらの制作をさらに未来にも過去にも広げようと研究室ではデジタルプロセスを積極的に取り入れたいと考えています。その先駆けとして3Dプロッタの木版製版への導入を試みています。一方で古典技法の拡充も視野に入れて石版石の研磨機を試験導入したり、古典的薬品による腐食液が再導入、日本の伝統的な水性板目木版授業は通年で取り組む事ができるようになりました。



3Dプロッタの木版製版への導入



石版研磨機

版画専攻が版画作品を作る場である以上こういうふうにも全方位的に制作と取り組める環境を作って行こうと思います。それは私達の教室でいう「版画」が大変に幅広く、ある意味で今私達が目にするアートほとんどすべてに当てはまるような広がりを持った芸術だからです。と言うよりメディアの垣上に上るほとんどのアートの情報はその複製、伝達媒体上のものですから当たり前です。版画的なものを含まない美術作品は実はそんなに多くないのです。この教室ではそういう芸術全般をここからは版画、これ以外は違うと言う難しい分類をするのではなく、どうしても版画とは言えないものを以外をすべて版画と見做しています。

私はここ数年この学校独自のテーマ演習と言う企画提出型の授業の一つを続けています。これは他の専攻の先生方にも協力してもらって様々な版画を作っているものです。普段版画を作られる事のない先生方のチャレンジはとても素晴らしい事です、実はそれに留まらずこの専攻が教員と学生とがぶつかり合い、お互いに刺激を受け、一人ではできなかったことを実現し、この環境でしかできないものを作り出せる場所でありたいと願っています。



めくるば (3年生展示発表授業)

彫刻専攻研究室

中ハシクシゲ

彫刻専攻 教授

“植村さあーん”

京都市立芸術大学が法人化してまもなく4年が経ちますが、大学が変わったなと思うことの一つに、モデル使用の多様化があります。モデルを使った授業が美術教育の上で大切であることはいうまでもありませんが、塑造の授業を行うのに女性モデルだけというのは、どうも合点がいきませんでした。例えば、生きた動物をモデルにするのも良いし、肉塊のついた骨格でも良いし、自然観察は、何も若い女性でなくても良いはずです。ところが、そうした授業計画に待ったをかけていたのがモデルは人件費であるという原則なのでした。法人化後、予算が比較的自由裁量になると聞いていた私は、すぐさま総務課に行ってモデル学習の様々な可能性について提案したところ、意外にすんなりと予算枠融通の許しをもらいました。



それから、私の自宅の近くの畜産農家の方などに頭を下げて子馬を連れてきたり、羊、子牛、親牛などを連れてきました。とても新鮮でした。生きた教材には、毎日の餌やり、糞尿の始末、動物小屋の確保などの作業が伴い、単に眺めるレベルでは収まらない濃厚なモデルとの付き合いが始まります。実際、動物に触れていると心が癒されます。そして、日々、観念的であった自然や動物へ

の眼差しに、根本的な揺さぶりがかかることになります。学生たちは目の当たりにする自然に、少しずつですが意識が変ってきたと私は感じています。

そんな中で、今度は豚をやってはどうか？と思い、昨年度から始めてみました。昨年は、腹部を縦に切って内臓を取り出し肢脚を逆さにした豚をアトリエの真ん中に据えての塑造授業です。腐敗を防ぐためにアトリエに2メートル近い大きな冷凍庫を設置しました。こうした身体の構造の把握の後に、生きた豚を連れてきて、今度は動いているモデルを観察するのです。

さて、このモデルの豚ですが、養豚場から一步でも外に出た豚は、もう元の場所に戻ることができません。外に出ると感染の疑いが出て、数千頭も一緒に暮らしている場所に危険が及ぶのです。学内で、ず～と飼いつけることができない以上、屠殺しか選択肢がありません。昨年は、結局2頭屠殺しましたが、今年は1頭だけにして、屠殺後は骨格標本を作り、次の新たな教材を作ることになりました。骨を傷つけず上手に残してくれる専門の業者に解体をしてもらった後、残った肉を食べ尽くすことを目標に「年忘れ、モデル豚・追悼バーベキューパーティ」を開きました。西洋美術史の深谷先生に、「肉」の図像学 絵画伝統における屠殺とそのメッセージ」というタイトルでオランダ絵画に残る屠殺風景の絵画についての講義も盛り込みました。学内の他専攻の学生にも周知して150人くらいは集まったのではないのでしょうか。面白い講義と美味しい韓国風焼肉で、肉はあっという間になくなりました。

この食べられてしまった豚は、何故かは判りませんが学生の間で“植村さん”というニックネームがついていました。トラックでアトリエから屠殺に出る時には、いつの間にか大勢の見送り人ができ、どこからともなく「植村さあーん」という声がありました。植村さんの飼育中には学生たちの間から、休日中の餌の当番がいろいろ加減だとか、床に敷いてある藁の掃除が完全でないとか、それでは命をいただく豚に対して失礼だ、などと学生同士で意見が出たことも良い思い出です。来年度は、土の中に埋めた植村さんを掘り出すところから授業は始まりますが、また新たな豚計画を考えているところです。



追悼バーベキューパーティ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーで、懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

やま だ まさこ
山田 沙

1958年（昭33）日本画科卒業
所属クラブなど：美大コーラス部で
4年間、15～6人で仲谷先生の下で
歌っていました。



美大に入学した年の名簿が手許にあります。ザラ半紙に手書きのガリ版刷りで、時代を感じます。入学当時、日本画は過渡期と云われ、細かい技法などは教わらず、自由で豊かな表現が出来ました。岩絵具を重ね重ねて画いた卒業制作が、思いがけず買上げとなり、その作品と、アクアでの同窓会回顧展で55年ぶりの対面に、異和感は感じませんでした。



卒業の時、同級生5人でつくった「青砥会」を、最初は京都書院画廊で、以後木屋町画廊などで、青砥会展第66回展まで56年間続いています。

今は平田豊・松田隆之と私の3人ですが、無欲・自由・純粋な精神で画き続けています。

私の夫は学者でハーバード大学・オックスフォード大学に留学の際、家族も一緒に住み、その後も世界の文化に触れ、外からも日本文化を視ることが出来て、幸せに思っています。



次号に紹介される方は、
明星 神次さん
1971年（昭46）日本画科卒業です。

退任にあたって

総合芸術学専攻 工芸学・芸術学 教授

伊東 徹夫



昭和46～47年度、京都大学の学生であった私は、今熊野校舎に週1回通った。陶磁史の弟子にさせていただいた佐藤雅彦先生に、ご自身の陶磁器工芸史の授業を聴講するように勧められたからである。校舎は侘びていたが、同年代の美術学部の学生たちは、矜持に満ちているように見えた。その後、大阪市立博物館（現、大阪歴史博物館）、大手前女子大学（現、大手前大学）に勤めた後、京都芸大に採用された。27年を過ごし、定年退職を迎えることになった。

佐藤先生は、学長をされ、学会の重鎮であり、作家たちとも親交が深かった。先生の後任となったとき、せめて、授業だけはあの世で佐藤先生に胸を張れるものにしたいと思った。実物資料を見せながら講義をしたいが、前期後期に1回ずつ大阪市立東洋陶磁美術館などに行くのが精一杯である。それでは不十分なので、自分の中国陶磁を大学に運んで触らせた。「こんなに薄く削れる?」、「どうしてこんな色

の じま かずあき
野嶋 一生

2014年（平26）版画専攻卒業
所属クラブなど：ラグビー部



©HALL KUZUYA

生業は「彫師」である。唐獅子牡丹ではない。木版画である。

ご存知のように伝統工芸としての木版画は絵師、彫師、摺師の分業で制作される。彫師は版木を彫刻する製版担当で、そのみに専念する。よって基本的には他者が描いた絵について考え、作る毎日を過ごしている。

彫るだけ、ではあるが実に多くの感触を頼りに仕事をしている。刃物を研ぐ感触。

和紙に面相筆を写し取る感触、山桜の無垢板に鋭く薄い刃を入れる感触、ノミ、槌でハツル感触etc…仕事が成功しているか否かは、それぞれの感触がいかに気持ちよいか、である。快樂が判断基準といえる。また、技の上達とは新たな快樂を知ることであり、これは恐らく微細に向けて無限なのだと思う。

仕事であるので発注元と納入先がある。絵師、摺師がそれぞれある。絵師には「もっと良い線」摺師には「もっと摺り易い版」をそれぞれ提供出来たとき、自分の献身的征服欲は異常に満たされる。これにも大変大きな快樂の発生が伴う。そしてこの種の快樂は前記の快樂と比例の関係にあるので、仮名で記せば ヨクなれば ヨクできて それがヨイという感じである。

社会に出るとはかくも快樂に満ちていたか。と5ヶ月になる長女と湯船に浸かりながら語り合う毎日を過ごしている。



次号に紹介される方は、
五藤 彰さん
2013年（平25）構想設計卒業です。

に?」などと目を輝かし、授業時間が終わっても陶磁器や陶片から手を放さない学生たちを見るのは喜びであった。

フィルム映写からデジタル映写へと機器は大きく進歩した。しかし、準備は3倍ほど時間を要するようになった。陶磁などの微妙な色合や明暗は自分にしかわからないことなので、他人に頼むわけにはいかない。睡眠を削って準備するので、週の終わりは疲れきったものだが、そういう生活ももうすぐ終わる。

総合芸術学科が始まったときのときめき、夜が更けても教職員が熱い議論を止めない年一回の組合研修旅行、四芸祭の前の野球部と教職員チームとの壮行試合、芸祭での『象』の店での皆さんの歌、みな懐かしい思いである。

「日暮れて道遠し」が今の心境です。4月からは全く別の「道」を探したいと思っています。みなさま、長い間ありがとうございました。

新任のあいさつ

今年度 10 月に採用された、デザイン科の若手ホープの先生方をご紹介します。

デザイン科 プロダクトデザイン専攻 講師

牛田 裕也



同窓会の皆様はじめまして。

私は牛田裕也と申します。大学では機械工学科を専攻した後、オフィス家具やエレベーターの設計・開発を8年程しました。

その後デザインの本場であるヨーロッパでデザインを学ぶ為にオランダへ渡り、Design Academy Eindhoven (以下DAE)にて主にプロダクトデザイン及び、そもそもデザインとは何かを学ぶ機会を得ました。また在学中に、現在のデザインシーンに於いて世界的に最も重要なデザイナーの一人であるKonstantin Grcic氏の元で働くチャンスを頂き、そこでの経験が今日のデザイナーとしての私を構築したと考えております。また、DAEの卒業制作であったSOFA_XXXX、及びそのプロダクトヴァージョンのXXXX_がニューヨークやロンドンの主要なミュージアムの永久収蔵に選ばれるといった大変貴重な経験をさせて頂きました。

昨年の7月に9年間住んだオランダより帰国し、『日本らしさ』に餓えていたところ、日本一日本的な京都という場所で、またその中でも歴史と伝統の深い京都市立芸術大学という場所に着任することができて、これからたくさんの面白いことが始まるような気がしてワクワクしています。今後の抱負としましては、デザインやものづくりをもっと人々に身近な存在にしていけたらと思っています。また、私の経験が若い人達にとってポジティブな刺激となればと思います。更に、オランダでデザインと同じくらい、もしくはそれ以上に多くを学んだ本場のサッカー（本当はフットボールと呼びたい）を良くも悪くも優しい京芸生に一から叩き込んで、春の五芸祭ではマイスターシャーレを天高く掲げたいと思っていますので、サポートの程よろしくお願いいたします。

デザイン科 環境デザイン専攻 講師

坂東 幸輔



平成27年10月1日付けで美術学部デザイン科環境デザイン専攻の講師に着任致しました坂東幸輔です。これまで東京に設計事務所を構えつつ、生まれ故郷の徳島県で古民家のリノベーションを行ってきました。古い建物が変わることによって地域の人々の価値観も変わる瞬間を何度も目にしてきました。人口減少により全国に増え続ける空き家を住むこと以外の目的でも活用していきましょと、現在は自分の活動を「空き家再生まちづくり」と呼んで徳島以外の地域でも活動しはじめています。

京都は私にとって初めての土地です。京都の方は昔から古い建物を大切に生活されており、見るもの・体験することのすべてが私にとって制作の糧となっています。このような恵まれた環境の中、将来の日本にとってどのような空間・建築・環境が必要とされるのかを京都市立芸術大学の学生の皆さんと一緒に考えられることをとても幸せに感じています。どうぞよろしくお願いいたします。

2015 年度芸大祭「象の店」

昨年（2015）10月31日（土）～2日（月）の3日間、同窓会として3回目となる「象の店」が店主＝上村淳之会長の乾杯の発声でオープンしました。同窓生を始め教職員、学生諸氏、市民の方々の千客万来で大いに賑わいました。



会員展覧会

(2015年2月～2016年2月)

■ 同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。

会員作品展

<2015年>

2/14～28	浅利美織展	GALLERY OUTOTSU
3/2～14	橋本正司展 ～彫刻・版画・ドローイング～	檜画廊 ①
3/11～17	赤沢嘉則陶展 MOSAICO NEO	日本橋三越本店
3/13～4/11	福本潮子作品集出版記念展 一藍の青ー	アートコートギャラリー
4/1～7	樋上さや子展 <染色>一旅の途中でー	高島屋京都店 美術画廊
4/7～12	村上郁夫日本画作品展	法然院 講堂
4/20～25	長谷川睦展 ちいさきもの	ギャラリー白3
4/20～25	山田俊行展 クリカエスコトカサネルコト	GALLERY 白
4月21日	後藤順子「セタ文様帷子」再現作品完成披露会	金戒光明寺 永運院
5/16～27	小曾根環展 1/f ゆらぎー記憶のアーカイブ	ギャラリー島田
5/18～23	河合美和展	ギャラリー白 ②
5/19～31	國松万琴展 一ぼんのかたちⅢ 2010～2015	ギャラリーマロニエ
5/25～31	後藤順子 棚の機屋展 2015 in 奥会津昭和村	道の駅 織姫交流館
5/26～31	岡田親彦 ガラスとことば遊び展「トンボとサギソウは」	藤田美術館ホール
6/8～13	吉田真紀子展	ギャラリーブチボワン
6/9～14	中井佳代子個展 -Red flow-	北野坂 ダイヤモンドギャラリー
6/23～7/5	渡辺信明展 放電の庭	ギャラリーすずき
7/18～9/18	渡邊野子 美のやわらかく、かたくある美	セゾンアートショップ
7/29～8/4	有賀麻里洋画展	阪急うめだ本店 ④
8/27～9/1	二階堂忠展	ギャラリー樹
9/16～27	奥田迪展 ～FESTIVAL Ⅲ～	WE スペース下鴨
10/2～31	前川秀治 銅版画展 一四版四色刷りの世界ー	るーぶる愛知川
10/3～12/6	岩澤重夫展 ー日本の心を風景に描くー	相国寺承天閣美術館
10/7～12	うかい昭平展	国際デザインセンター
10/8～18	國松万琴展 -BON VIAGGIO Ⅲ-	ギャラリー デラ・パーチェ
10/26～11/3	浅利美織展	2kw Gallery 58
10/28～11/3	荒瀬隆造 油彩画展	仙台三越
11/22～12/5	仲摩洋一展 -reminiscences-	コンテンポラリーアートギャラリー Zone ⑥
11/24～12/6	大森翠展	アートライフみつはし
12/15～23	浜田泰介の世界展	小丸屋サロン

<2016年>

1/16～21	金井良輔展 彫刻 素描 水彩	TOR GALLERY
1/13～18	小川英夫 米寿展	和歌山県民文化会館
2/9～14	有賀麻里 作品展	ギャラリーあじさい

会員グループ展

<2015年>

2/26～3/3	田中陽子・裕子 母娘展	ギャラリー香
3/3～8	Miniature 触覚の庭 - ミニアチュール3人の試み 大住由季、田辺由子他	ギャラリーマロニエ
3/7～4/5	エンバ美術コンクールの奇蹟 福本繁樹	丹波市立植野記念美術館
3/15～4/4	Visual Sensation Vol.6 仲摩洋一、松井沙都子	ギャラリーデン南山城村
3/23～29	第29回 回象展 青木弘年、岡田宏三、川上博子、河野裕子、高見澤美代子、竹井昌子、寺田茂樹、中越出、中島智恵、二階堂忠、平島光、藤田清照、古川睦子、前垣内輝行、山崎和代、山本加代子、横井智恵子、吉田敏子、依田鏡子	ギャラリーくぼた
3/31～4/5	第39回 Q人の作品展 宇井恭子、奥田正子、奥田迪、貴志早苗、永谷正二、吉田恵美子	京都府立文化芸術会館
4/28～5/3	第2回 ヌフ展 京都芸大OB仲間 上山八洲子、サトーキミエ、東樋口美智子、古川睦子、宮島みどり、柳田輝子、山崎和代、山本加代子、依田鏡子	京都府立文化芸術会館
5/3～4	第28回 西山高原アトリエ村展 落合峯子、角田哲郎、貴志カスケ、貴志早苗、久保良裕、斉藤かずこ、斉藤均、柴田良三	西山高原アトリエ村
5/12～17	四人展 高田泉、井尻雅夫、亀山玲子、松村みどり	ギャラリーヒルゲート
5/19～24	14 seasons【14人の現在】 大志万伸子、大原千尋、衣川雅之、西真里、佐川俊浩、田中直子、鳥越翔海、野津寿子、福井研一、藤原二郎、ふるはし美鳥、堀内たかみ、真木智子、若林佳代子	ギャラリーヒルゲート ⑤
6/2～7	2015 花と土と人展 京都市立芸術大学美術教育研究会東海支部	セントラル・アートギャラリー
6/3～16	第3回日仏交流版画展 神野立生	CITE INTERNATIONALE DES ARTS
6/15～27	いきづく空間ー手を止める瞬間ー 長谷川睦他	ギャラリー白
6/23～28	Ge展 京都芸大卒業生他	京都市美術館
7/5～8/31	海を編む、美を編むーいわきの海と新田恭子作品展	海の博物館
7/14～19	2015 京都銅版画協会 ミニアチュール展 前川秀治他	ギャラリーヒルゲート
7/21～26	2015 京都市立芸術大学美術教育研究会 双線美術 京都支部展	ギャラリー吉象堂
7/31～8/5	第27回4B展 京都市立芸術大学美術教育研究会 兵庫支部	南天荘画廊
8/2～10	棚の機屋展 2015 風をまとうセタの衣の物語後藤順子他	清滝ギャラリーテラ
9/8～13	2015 滋賀双線美術展 京都市立芸術大学美術教育研究会滋賀支部	滋賀県立近代美術館
9/19～11/23	神戸ビエンナーレ 2015 兵庫・神戸の仲間たち展	BBプラザ美術館
11/10～15	石田家三人展 石田眞弓、石田歩、石田由	ギャラリーヒルゲート
12/1～6	第40回 GOOD ART 記念展 かがやきとともに吉田孝光他	京都市美術館 ③
12/8～13	中島志緒 作品展 2015 賛助出品 / 中島智恵	ART Gallery 山手

<2016年>

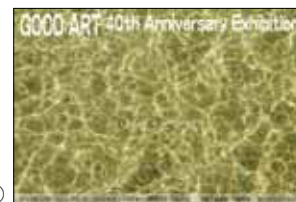
1/10～16	第53回 大阪双線美術小品展 京都市立芸術大学美術教育研究会大阪支部	大阪現代画廊
1/13～2/15	京都市立美術大学染織専攻の光芒 part-3 教鞭を執った染織作家10人展 稲垣稔次郎、小合友之助、来野月乙、黒田暢、佐野猛夫、高木敏子、寺石正作、西嶋武司、中野光雄、三浦景生	染・清流館



①



②



③



④



⑤



⑥

- 1月 7日～ 2月 8日 特別展4「ARTIST WORKSHOP @KCUA SHOWCASE」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 1月10日～ 2月 8日 ARTIST WORKSHOP@KCUA The Hundred Steps 成果発表展 /SHOWCASE (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 1月17日～ 1月18日 2015 年度大学入試センター試験
- 1月24日～ 2月 8日 ARTIST WORKSHOP@KCUA “The Open Score”by Lucky Dragons 成果発表展 /SHOWCASE” (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 2月 4日 定金計次教授退任記念講演会 (大学会館交流室)
- 2月11日～ 2月15日 2014 年度卒業・修了作品展 (京都市立美術館及び本学構内)
- 2月11日～ 2月15日 京都芸大博士展 (学内 新研究棟)
- 2月11日～ 2月22日 黒崎香織個展「誠実に絵画」/田中秀和個展「TIMEPECTIVE」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 2月11日～ 2月22日 ARTIST WORKSHOP@KCUA 「THE Catalogue: 川内倫子ワークショップ成果発表展」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 2月12日～ 3月 1日 「わたしのカラダわたしの emo」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 2月14日～ 3月 1日 京都市立芸術大学美術学部同窓会展 移転と改革-1970 年代を中心に (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 2月14日～ 3月 1日 学内申請展2「あの“ピーン”、あの“ペケペケ”」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 2月18日～ 2月20日 京都芸大「境谷小学校レジデンス」 京都市立境谷小学校平成 26 年度作品展 (京都市立境谷小学校 体育館・アートスペース・コミュニティプラザ)
- 2月25日～ 2月26日 2015 年度美術学部入学試験
- 3月 3日 2015 年度大学院美術研究科博士 (後期) 課程入学試験
- 3月 6日 2015 年度美術学部・大学院美術研究科博士 (後期) 課程合格発表
- 3月 7日～ 5月10日 PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 特別連携企画 / 京芸 Transmit Program #6「still moving」(崇仁地域 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 3月 7日～ 5月10日 建昌哲学長退任記念展「POETRY/ART」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 3月18日 ビジュアル・デザイン専攻イタリアのボローニャで展覧会開催
- 3月23日 2014 年度卒業式・学位記授与式
- 3月31日 宮本道夫教授、定金計次教授、小山格平教授退任
- 4月10日 2015 年度入学式
- 4月14日～5月17日 芸術資料館収蔵品展 第1期「新収蔵品展」(芸術資料館)
- 5月16日～6月21日 マテリアライジング展Ⅲ 情報と物質とそのあいだー (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 5月21日～5月24日 第61 回五芸術大学体育・文化交歓会 (五芸祭) (本学)
- 5月23日～6月28日 芸術資料館収蔵品展 第2期「東洋画 模写の世界」(芸術資料館)
- 6月 1日 三橋 卓講師着任
- 6月 8日 五十嵐太郎 特別授業「3.11 後に企画した展覧会とプロジェクト～あいちトリエンナーレ 2013 を中心に」(大学会館 交流室)
- 6月27日～ 8月 2日 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA 特別企画展「月が水面 (みなも) にゆれるとき」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 7月 1日 創立記念日
- 7月 4日～ 8月 7日 芸術資料館収蔵品展 第3期「陶磁 教育とコレクション」(芸術資料館)
- 7月18日～ 8月 2日 2015 年度京都市立芸術大学「総合基礎実技展」(中央棟大ギャラリー)
- 7月23日 建昌 哲前学長 特別授業「国際展とキュレーション～今年のヴェネチア・ビエンナーレをふまえて」(大学会館 交流室)
- 8月 1日～ 8月10日 京の七夕 (堀川会場・鴨川会場)
- 8月 2日 美術学部オープンキャンパス (本学構内)
- 8月 4日～ 8月 9日 京都市立芸術大学サマーアートスクール 2015 (大学構内)
- 8月 6日 夏休み子ども写生大会 (京都市動物園)
- 8月 6日～ 8月23日 鳥丸由美個展「フェーシング・ヒストリーズ・イン・ヒロシマ」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 8月 8日～ 8月23日 展覧会「山 / 完全版のいきいきセントラル」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 8月27日～ 9月 6日 京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展 ART であしあと 6 図案科卒業・修了作品 衣によそおう (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 8月29日～ 9月 6日 展覧会「未知の標本」展 (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 9月10日～ 9月27日 染織専攻学生選抜展 つながる糸 ひろがる布 (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 9月12日～ 9月23日 東日本大震災復興支援・芸術活動支援チャリティーオークション「サイレントアクア 2015」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 9月22日～ 10月25日 芸術資料館収蔵品展 第4期「人・花・鳥 土佐派絵画資料展」(芸術資料館)
- 9月26日～ 10月 4日 Nuit Blanche Kyoto 2015@KCUA (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 10月 1日 牛田裕也講師・坂東康輔講師着任
- 10月 1日～ 12月31日 2015 年度ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (イギリス)、ノヴァスコシア美術大学 (カナダ)、ボザール・パリ (フランス)、アールデコ・パリ (フランス)、アールト大学 (フィンランド)、ミラノ工科大学 (イタリア)、中央美術学院 (中国)、シドニー大学美術学校 (オーストラリア)、韓国芸術総合学校 (韓国) 交換留学生派遣及び受入れ
- 10月10日～ 11月15日 デウシュ・カントル生誕 100 周年記念事業「死の劇場 - カントルへのオマージュ」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA 京都芸術センター)
- 10月14日 ビジュアル・デザイン専攻 公開講座「田中一光 ～手の痕跡をたどる～」(学内 大学会館ホール)
- 10月31日～ 11月 2日 2015 年度京都市立芸術大学祭
- 10月31日～ 12月 1日 芸術資料館収蔵品展第5期「京都市立美術大学と陳列館 資料収集史戦後編」(芸術資料館)
- 11月 8日～ 11月13日 2016 年度大学院美術研究科修士課程入学試験
- 11月11日～ 11月17日 Makeup | 過去・現在・未来 (学内 大学会館ホール)
- 11月17日～ 11月30日 京都銀行美術研究支援制度 15 周年記念展覧会「京銀コレクションの 15 年」(京都銀行 金融大学校 桂川キャンパス大ホール)
- 11月19日 2016 年度大学院美術研究科修士課程合格発表
- 11月21日～ 12月 6日 岡崎和郎 / 大西伸明 Born Twice (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 11月21日～ 12月 6日 大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト「谷穹」個展「□□-□□」(うつろ) (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 11月24日 京都市立芸術大学・韓国芸術総合学校 教員交流特別授業「韓国の現代美術とアン・ギョルの作品」(新研究棟 2 階 大会議室)
- 11月25日～ 11月29日 「出品協力はうこく展」(中央棟大ギャラリー)
- 11月27日 森田りえ子客員教授 特別授業「京芸と私～恩師から学んだ心～」(真澄寺別院流響院 南禅寺)
- 12月 5日 「西京区民対象」京都芸大・西京区地域連携企画京都芸大アートスクール第1 回講座「京菓子の美」田島達也教授 (西京区役所 大会議室)
- 12月 9日～ 3月21日 堂本印象美術館企画展「美を創る 京都市立芸術大学日本画コレクションを中心に」(京都府立堂本印象美術館)
- 12月10日～ 12月20日 京都市立芸術大学第 26 回留学生展 (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 12月10日～ 12月25日 伊藤早樹子個展「カメのしじみ」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
- 12月23日～ 12月24日 THE GIFT BOX 2015 アーティストが提案する特別なギフト。(京都文化博物館別館ホール)

京都市立芸術大学作品展

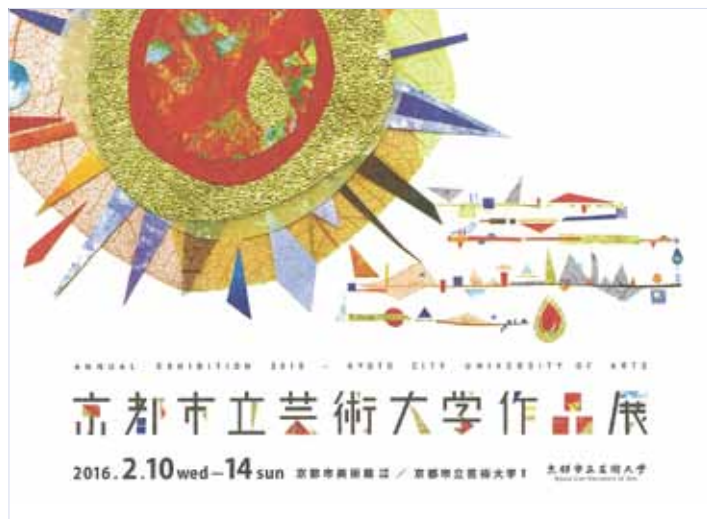
毎年恒例の美術学部および大学院美術研究修士課程の学生全員（約700名）による作品展が、京都市美術館および大学を会場に開催されます。

2016年2月10日（水）～14日（日）

9時～17時（入場は16時30分まで）

ギャラリートーク：2月14日（日）14時～市美術館本館で市長賞等を受賞した作品の作者による解説が行われます。聞き手は、鷺田清一学長です。

機会があれば、同窓生各位にも「作品展」を観に来ていただきたく存じます。



事務局だより

■二セ名簿業者、同窓会関係者や同窓生を騙って情報を聞き出そうとする者にご注意を

同窓会からの案内は、同窓会の所在地（大学内に設置）や電話番号が正しいことを必ず確認して対応ください。不審な点は同窓会へ電話などで直ぐにお問合せください。

■同窓生名簿 2015 について

昨年発行しました同窓生名簿 2015 を 1 冊 3,500 円（送料込）頒布しています。ご希望の方は同封の払込取扱票にて代金を振り込んでください。折り返し送付します。（お一人 1 冊）

■同窓会費納入のお願いと「終身会費制」移行の締め切りについて

同窓会は皆様の会費によって運営されております。年 1,000 円、2 年分まとめて 2,000 円として納入をお願いします。

また、2014 年 3 月に卒業・修了された会員から希望者に会費の「終身会費制」を実施しています。既会員にも希望者には「終身会費制」への移行期間を設けましたので既に多くの会員が移行されておりますが、既会員を対象とした移行期間は、2016 年 3 月末日までですので、終身会費で会費を一括納入される方はお早めをお願いします。

▼ 同窓会への連絡をお願いします。

● 同窓会後援名義使用について

同窓会会費を納入されている会員が主催する作品展など（個展、グループ展）で同窓会の後援名義使用を希望される方。

● 展覧会の案内、情報をお寄せください

同窓会宛に送っていただいた展覧会の案内、情報はホームページや会報に掲載しています。

● 満 80 歳以上の会員 会費免除を希望される方は連絡ください。

過去 10 年間同窓会会費を継続して納入いただいた満 80 歳以上の会員で会費免除を希望される方。

● 氏名、住所、電話、FAX などを変更された時

お忘れになると会報などの諸情報をお届けできなくなりますので、表紙ページに記載の連絡先へ郵便、FAX、メールのいずれかの方法でご連絡ください。

編集後記

●同窓会報「象」前号（no.61）でお知らせいたしました「京都芸大同窓会アートフェア2016」も実行委員会により詳細が詰められ、開催に向けて着々と準備が進められています。最終246名の方々にご出品していただくこととなり、300点もの出品が予想されています。

また、このアートフェア開催期間中、会場内で音楽学部同窓会「真声会」の会員によるリレーコンサートも企画されており、美術、音楽両学部共同でオークションを盛り上げる動きは、ここ数年、両学部共同で会議を重ね交流してきた成果であり、理想とするあり方として大変喜ばしいことです。ご期待ください。

このアートフェアに、お一人でも多くの方々に足をお運びいただ

き、オークションに参加してくださることを心よりお待ちしております。

●大学内においても、大事業となる移転に向け、鷺田学長のリーダーシップのもと学内議論が重ねられ、「基本構想」「移転基本プロジェクト」をもとに、さらに具体的な検討がなされています。京都市民を巻き込む、日本の芸術、文化の火床、そして、世界に向けて発信する拠点としての役割を担う大学として、新たなスタートに期待が膨らみます。

平成35年の移転に向けて、同窓会もその過程を見守り、応援していきたいと考えています。

（会報編集委員長：阿部 緑）